

質疑及び一般質問

令和8年2月24日、26日、27日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。
各議員の質疑の中から1問をピックアップし、その要旨を掲載します。

CHECK! 白熱議論を映像でご覧ください!

下の各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

2月24日(火)



丹羽 あゆみ 自由民主党
(みどり市)



▶移住希望地ランキング1位を踏まえた次のステップについて

Q 移住者の定着支援を進化させ、過疎地域を含めた地域の活力につなげていくための具体的な方針について伺いたい。

A 知事

移住者と地域住民をつなぐ「移住コーディネーター」による交流イベントなどの情報を、移住直後、地域とのつながりを求めている方に届ける仕組みを整え、顔の見える関係づくりを後押ししていきたいと考えている。また、過疎地域では都市部にはない地域の魅力発信や「地域おこし協力隊」の制度を活用して移住促進に取り組み、移住者の定着支援を進化させ、地域の活力に繋げていきたい。



加賀谷 富士子 リベラル群馬
(伊勢崎市)



▶湯けむりフォーラムについて

Q 「職員の動員指示はなかった」とするなどの今回生じた問題について、反省点をどのように捉え、今後どう対応していくのか。

A 知事戦略部長

今回の問題は、部長の指示方法や確認体制が不十分で、現場との認識に齟齬が生じたことに起因すると受け止めている。指示の伝え方や確認方法を見直すことで、管理職と現場との間で意図のずれが生じないようにし、現場での運用が適切に行われるよう改善を図っていく。また、再発防止に向け、今回の事案を組織全体で共有し、職員が適切に業務を遂行できるよう、指導・支援に取り組んでいく。



牛木 義 自由民主党
(甘楽郡)



▶子どもへの食育について

Q 群馬県は栄養教諭の割合が他県に比べ少ないと考えるが、現状の認識と今後どのように食育に取り組んでいくのか伺いたい。

A 教育長

栄養士には栄養教諭と学校栄養職員がおり、そのうちの栄養教諭の割合は全国と比較して低い状況にある。県採用の総数は国の基準に従っており、市町村採用の学校栄養職員も含めた比率が指摘の割合である。食育は組織的・計画的に進めており、栄養教諭はその中核として重要な役割を担う。令和8年度には1名の増員を予定しており、今後も計画的な配置促進と食育指導の一層の充実を図る。



水野 喜徳 自由民主党
(吾妻郡)



▶2029年国スポ冬季大会におけるスケート競技会について

Q 2029年国スポ冬季大会スケート競技会の本県開催についての考えを伺いたい。

A スポーツ局長

本県は多くのスケート競技のオリンピックを輩出し、また、今年開催された国スポ冬季大会スケート競技会では総合5位という成績を取った。県では、スケート競技のさらなる活躍に向け支援をしているところである。2029年の国スポ冬季大会でのスケート競技会の本県開催については、財政的・人的負担が大きく、ハードルが高いため、会場地市町村の意見などを確認しながら、慎重に判断していきたい。

2月26日(木)



矢野 英司 自由民主党
(富岡市)



▶デジタル・クリエイティブ産業^(※2)の創出について

Q エンターテインメントの力を活用したデジタル・クリエイティブ産業の創出について、知事の考えを伺いたい。

A 知事

他の自治体に取り組んでいない領域に踏み出していくことこそが「稼ぐ力」の向上につながるものと考えている。新たな分野での収益基盤の確立は、結果として、県民生活を支える施策の推進に大きく寄与するものと考えている。デジタル・クリエイティブ産業の中核となるエンターテインメントの力を最大限活用し、本県の魅力発信と新たな富の創出を目指し、県民幸福度の向上につなげてまいりたい。



酒井 宏明 日本共産党
(前橋市)



▶生活保護行政の今後の取組について

Q 生活保護に関する調査結果を踏まえ、県全体の生活保護の適正実施を図るために、どのように取り組んでいくのか伺いたい。

A 福祉局長

調査結果から福祉事務所全体で統一的な対応ができる仕組みを整えていく必要があると考え、職員が必要なポイントや根拠を確認できるよう、権利侵害や誤りが起きやすい場面におけるチェックリストを作成することとした。このチェックリストについて、制度の趣旨目的に沿った活用がなされるよう、研修により徹底を図るとともに、定期監査等において取組状況の確認や指導を行っていく。



森 昌彦 自由民主党
(邑楽郡)



▶赤岩渡船の運航について

Q 県道として運航している「赤岩渡船」に、大量の水草が発生し運航に支障が出ているとの報道があったが、その後の対応状況はどうか。

A 県土整備部長

昨年は高温の影響が長期化し、例年になく規模で水草が繁茂したため、船の運航管理に苦慮する場面もあった。利根川の管理者である国土交通省や、運航を委託している千代田町と協議し、水深が浅く、水草の繁茂が著しい群馬県側の棧橋付近の掘削について県が主体となり実施することとした。工事は3月中に完了する予定である。今後も、利用者の安全を第一に考え、適切に対応したい。



安孫子 哲 自由民主党
(前橋市)



▶県立赤城公園の大沼キャンプフィールドについて

Q 大沼キャンプフィールドのオープンに向けたスケジュール及び施設の名称について伺いたい。

A 知事

県立赤城公園の活性化に向けて整備を進めている大沼キャンプフィールドは、ゴールデンウィークの初日である4月25日(土)にオープンすることを決定した。利用予約は3月23日(月)に開始する。施設のネーミングライツパートナーは、指定管理者である株式会社スノーピークに決定し、愛称は、「スノーピーク 赤城キャンプフィールド」である。

2月27日(金)



入内島 道隆 自由民主党
(吾妻郡)



▶県防災ヘリ墜落事故への対応について

Q 事故を風化させないための方法についてどのように考えるか。また、危機管理全般についての見解も併せて伺いたい。

A 危機管理監

事故を風化させないという思いを込め、渋峠と県消防学校の2カ所で追悼式をこれからも行うとともに、事故後に構築した安全運航体制の維持・向上と職員の安全意識の徹底を図っていきたい。また、遺族会のご意見、ご要望には引き続き丁寧に対応してまいりたい。極めて重大な事故を経験したものの責務として、あらゆる面で危機管理体制を強固にするよう取り組んでいきたい。



宮崎 岳志 群馬維新の会
(前橋市)



▶本県ゆかりの宰相・鈴木貫太郎について

Q 鈴木貫太郎の顕彰や大河ドラマ化の運動について、県の考えを伺いたい。

A 知事

鈴木貫太郎は、第二次世界大戦末期、ポツダム宣言を受諾し、終戦へ導いた内閣総理大臣である。国の命運を左右する難しい決断を下した偉人が、少年期を前橋で過ごし、群馬県とゆかりの深いことは郷土の誇りである。前橋市民が中心となった顕彰活動に対して、心から敬意を表したい。大河ドラマの実現に向けては、いくつものハードルがあるかと思うが、活動を応援してまいりたい。



中島 豪 自由民主党
(高崎市)



▶社会基盤の整備・維持に必要な予算について

Q 資材価格や人件費の高騰など、建設業を取り巻く厳しい環境を踏まえ、社会基盤の整備・維持に必要な予算をどう確保していくのか。

A 知事

未来構想フォーラムや建設業協会との意見交換会では、知事自らが現場に足を運び、課題を共有することで、県の予算編成に反映している。その結果、令和7年度国補正予算では、北関東で1位となる配分額を確保するとともに、令和8年度当初予算では、対前年1.02倍となる618億円を計上している。今後も、現場の声を起点とした政策運営を基本に、必要な予算を確保していく。



狩野 浩志 自由民主党
(前橋市)



▶新たな文化拠点について

Q 群馬県民会館廃止に伴う「新たな文化拠点」の整備に向けた検討状況について伺いたい。

A 知事

「新たな文化拠点」について、駅からのアクセス・駐車場の確保の観点から、旧県民会館の立地が最適とは言い難いと評価している。また、既存の建物は「基本的に解体」が良いと考えている。来年度、基本構想の策定にあたり有識者検討会議を立ち上げる予定である。引き続き、県議会の意見を聞いて議論するとともに、前橋市と連携を図り、県民の意見も取り入れながら検討を進めてまいりたい。

※2 デジタル・クリエイティブ産業…デジタル産業とクリエイティブ産業を掛け合わせ、その技術やアイデア等を融合させた新たな産業